

課題・問題等	援助の方針・方法(具体的な関わり)等	結果
<p>日中、何もせずボーッとしていることが多い。</p>	<p>本人と長男に、デイサービスの回数を増やすことを検討してはどうかと提案した(20XX年10月)。</p>	<p>本人は、自分では決められず、長男の言うとおりにしてほしいということだった。</p> <p>結局、長男の拒否で実現しなかった。長男が言うには、以前デイサービスを見学した際、重度の認知症の利用者が多いことで、本人には適したところではないと思ったとのことだった、本当は、入浴以外は利用したくないと話し、現在の週2回のデイサービス利用についても、よく思っていないことがわかった。</p>
<p>物忘れが急にひどくなった。</p>	<p>①専門医の診断を受けるように、本人と長男に進言した(20XX年6月)。</p> <p>②デイサービスと訪問介護担当者に、様子を連絡するように依頼した(20XX年6月)。</p>	<p>①やはり長男の拒否があった。長男は、本人は今までどおりのことはできるから大丈夫だと主張し、物忘れに対して診断を受けること自体にかなり抵抗がある様子だった。</p> <p>②精神的に不安定になっている様子がわかってきた。自宅でもデイサービスでも独語が増え、ときどき、「財布がない」「息子に怒られる」などと、パニック状態に陥る様子だった。</p>
<p>精神的に不安定な状態が続いている。</p>	<p>本人と長男の話を聴くことで、その原因と解決策を探る(20XX年10月)。</p>	<p>長男の話 何でもできるはずなのに、何度も同じ話を繰り返すこと、ものを捨てず部屋が散らかっていることにイライラしているという。</p> <p>本人の話 長男は、本人に手をあげることはないが、ときどき怒鳴ることや、無視することがあるという。本人は、どうすればいいかわからず、「息子に迷惑をかけるなら、もう早く死にたい」と口にしていた。</p>
<p>本人と長男の関係がよくない方向に変化している。</p>	<p>長男に本人の物忘れ(認知症)について理解を促す(20XX年11月)。</p>	<p>長男と時間を合わせることができず、未だに話し合いの時間をもつことができていない。</p> <p>※事例提供者自身、また長男に拒否されるのではないかと不安で、積極的に時間調整をすることができない。</p>